

来られている人も多いと思うんですね。でもそういう人にリーチができて、「きっかけを与える場」として機能しているという意味ではとても重要な役割なのかなって気がしています。環境活動というと「学者さんたちの難しい論文や講演を聞く」ようなイメージが圧倒的だと思うので、もっと日常に近い形で楽しく触れられる機会が大事なのかなと思います。今後は「現状を知る」というところから、「実際の行動に移す」為のアクションとして、現地のツアーだったり、何か具体的に体験できる機会を作っていきたいと思っています。

松尾—アースデイには、同じ意識で集まっている仲間が大勢いるので、横の繋がりを持ってもっとパワフルなムーブメントを作っていけたらなって思いますね。団体それぞれに持つ強みやコミュニティを活かして大きなうねりにしていきたいですね。

河野—以前のアースデイ東京で狩猟団体としても出展していたんですけど、事務局あてに動物愛護団体さんから疑問を呈する旨の厳しいご意見をいただきました。その方の主張も理解できたのでイベント当日に直接ご挨拶に行ったんです。そこで初めて会話が出来たんですけど、狩猟の活動をしていく上での貴重なアドバイスをいただく事ができました。ネット上でのメッセージって、ほぼ一方通行じゃないですか。それが、「場所」があることで会話が生まれて、お互いが理解しあえる場って大事だなと実感したんです。多様な考え方や活動が、アースデイ東京というひとつの空間の中で共存することそのものが、地球という星の縮図のようで僕としては最終的には良かったんじゃないかなって思っています。びっくりしましたけどね（笑）。

松尾—新しい視点、自分と違う意見、考えを持っている人と出会う場所でもありますからね。地球のことを考えたい、そのために行動したいっていう目的のもとに対話が出来るとというのが、アースデイのいいところだなと思います。

SDGs について

河野—2019年のアースデイ東京では2018年同様、SDGs[※]をメインテーマにしつつ、そこにプラスチックフリー[※]を絡めていく予定です。特に今後はグローバルなネットワークを強化していこうと思っていて、ちょうどアメリカでもプラスチックフリーを打ち出すので、一緒にやる方向で進んでいます。

SDGsは昨年のアースデイ東京の実行委員会の中で自然発生的に出てきたテーマだったんです。あらためて調べてみるとSDGsの17項目すべてに、アースデイ出展者が何らかの形で関わっていることもわかって、これはアースデイ東京として取り組む必要があるんじゃないかってことになりました。まだまだ認知度の低いSDGsではあるけれど、アースデイをきっかけにして、その存在を知ることができるのであれば、それこそアースデイのミッションでもあるんじゃないかと思いました。

松尾—私たちが日常的に当たり前に使っているものが、世界紛争や人権侵害、環境破壊に繋がっているものが実はとても多くあります。石油などの化石燃料、食糧、金属、衣料など、私たちの日々の暮らしと世界中に起こっている様々な問題は密接に結び付いています。そこにSDGsがあるというふうに捉えていただくと一番わかりやすいのかなと思います。取り組み方も個人、企業、国、というように選択することができます。それぞれの場面、それぞれの立場で捉えて考えることができるのがSDGsです。

アースデイ東京もSDGsの12番に取り組んでいます。12番は「つくる責任、つかう責任」です。その物がどこから来て、どこへ行くのか、誰がどのような環境で作っているものなのかを知ることができる場になっています。またその商品に関わる問題をNPOやNGOさんから学ぶことが出来る場所でもあります。地球と地球に住む人々が抱える問題と私たちの生活のつながりみたいなところをアースデイの会場で見ていただけるので、そういう意味でもSDGsとアースデイはすごく相性が良いとあらためて思います。

河野—2018年のアースデイ東京で、環境省の森本事務次官に登壇頂いたのですが「環境に関わる仕事をしている人、興味・関心を持っている人たちが、こんなにも存在しているんだってことに気付かされた」というような話をされていて、それがすごく僕としては印象的でした。こういった場作りの大切さ、目に見える化の重要性にあらためて気付かされたし、勇気づけられました。自然と地球や環境のことを考えて触れ合う場所として存在し続けるアースデイって、やっぱり大事だなと思うし、この活動を次世代に繋げることも僕の使命のひとつかな。その上で最終的な目標は地球の限界資源「アース・オーバーシュート・デー」を超えないような状態をつくっていくためのアクションを生み出していきたいですね。



写真上) 2018年4月に代々木公園にて開催されたアースデイ東京でのSDGsハッピーアースパレードの様子。

写真下) 2018年11月渋谷LOFT9で「アースデイ東京オープンミーティング vol.8」。会場で使用されたのはプラスチックごみを削減するためのリユースカップ。

松尾—「アース・オーバーシュート・デー」は、人間による天然資源の消費量が、地球による生態系サービスの生産量を超えてしまう日のことで、いま世界のアース・オーバーシュート・デーは8月1日なんですけど、日本は年間の資源予算を5月で使い切っちゃっています。地球環境という視点から日本は現状、借金状態になっているんです。これを一年で使い切る、もしくは貯金をするくらいのところまで持つていくというのが目標です。このアース・オーバーシュート・デーと一緒に語られるのがエコロジカル・フットプリントですが、今、日本人の生活は世界の平均レベルの3倍の水準で生活しています。贅沢し過ぎな状態ですね。日本の生活水準を全世界の人がすると、地球が2.9個必要だって言われています。こういった情報と視点を持って、持続可能な社会や地球、平和な世界やSDGsが達成された状態ってどういうもので、そのためにはどのように生活していくべきなのかを考えることが重要だと思っています。